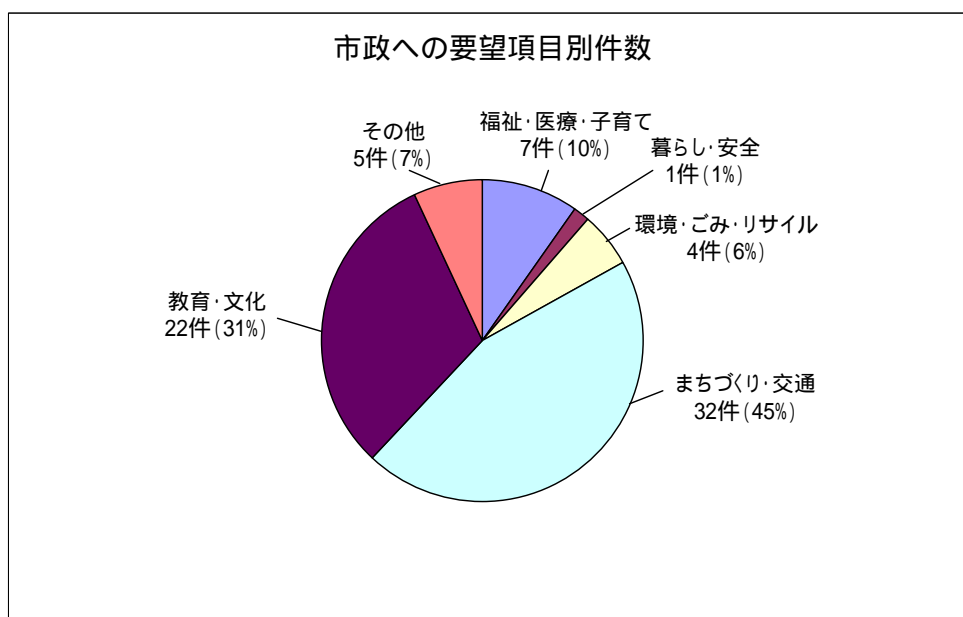


6. 過去の提案等取り組み状況

平成19年度“タウンミーティング「市長と語る」”提案等取り組み状況

テ ー マ 市民のみなさんの夢をきかせて！ ～10年後のわがまちを語り合おう～
各会場の実績

開催日	会 場 (ミニコンサート出演大学)	地 域	地 区	参加者数 (人)	発言者数 (人)	発言項目数 (件)
5月12日	市役所本庁舎 (東京純心女子大学)	中 央	本 庁	118	12	17
5月19日	柏木小学校 (首都大学東京)	東 部	由木 由木東南大沢	60	7	10
5月26日	北野事務所 (東京工科大学)	東南部	由井 北野	116	10	14
6月9日	川口市民センター (東京造形大学)	西 部	元八王子 恩方 川口	164	9	9
6月16日	横山南市民センター (東京家政学院大学)	西南部	浅川 横山 館	86	6	7
6月23日	加住市民センター (東京家政学院大学)	北 部	加住 石川	99	11	14
			合 計	643	55	71



ご意見・ご提案をいただいたその後の取り組み状況の一例をご報告すると

平成19年5月12日・市役所本庁舎【中央地域】

<意見> 学園都市づくり」のプランについて、具体的にどういったものを目指しているのか教えてほしい。「学園都市」ということを掲げているのだから、在住の学生に対してもメリットのあるまちづくりがされるのか。

(宮本 誠主 様)

市長 八王子の「学園都市づくり」は、八王子の大学の学生だけを対象としているだけではない。私が嬉しいのは、真剣にまちづくりにご提案をしてご協力をしていただいていることである。それは、素晴らしいことだと思う。学生独自の発想で学生しかできないような内容で「学生天国」を開催している。学園都市大学「いちよう塾」がある。包括的な市民大学を開催しているのは、八王子だけではないかと思っている。ホームページや広報に具体的なものが掲載されているので、見ていただきたい。

【対応】 現在行っている各種事業を推進するとともに、更なる学園都市づくりを推進するために、八王子の学園都市づくりを統括する新たな組織「(仮)大学コンソーシアム八王子」の設立を平成20年度に検討していく。

<意見> 八王子市ブランドの名産のグッズを作り、それを前面に出して売り込みをしたらどうか。

(榎本 邦美 様)

市長 八王子ブランドのグッズはなかなか難しい。これは、市民の皆さんから持ち上がってそれを行政がバックアップしていくというのが大事ではないか。広くアイデアをいただいて、行政がやらなければならないことは、しっかりとやっていきたいと思っている。

【対応】 行政の役割として、民間が行なう八王子ブランドの周知・情報提供を行なった。「プリンセスカレー」(レトルトカレー)、「千人同心」(日本酒)、「八王子 Walker vol. 2」発刊支援等である。今年度、本市の地域産業資源として、「高尾山」「道の駅八王子滝山」「服飾製品」「計測・分析機器」が、都の策定した「中小企業地域資源活用促進法における基本計画」による国の認定を受けた。中小企業がこれらの地域産業資源を活用した製品開発を行なう場合、国からの支援が受けられるため、本市でも企業訪問等を通じて企業情報を収集し、本制度を活用する中小企業につなげていく。

平成19年5月19日・柏木小学校【東部地域】

<意見> 中学校の給食については、検討ありがとう。いつか叶うことを願っている。

(白水 嘉奈子 様)

市長 中学校給食のことは、今、検討している。できるだけ、余りお金の掛からない方法を考えて前向きに検討中であるから、もう少し時間をいただきたい。

【対応】 平成21年4月から、市内全中学校一斉に開始する予定。民間の給食業者を活用した弁当の配達方式と家庭から弁当を持参する方法との併用方式を検討している。平成20年度中に配膳室や業者との契約等の準備を行う。

<意見> 南大沢駅前の自転車の放置がひどい。最初はちょっと見苦しい程度であったが、当たり前のように置いていかれ、歩くのも迂回しなければ目的地に到達できない状況である。一方的な不快感と通行の障害で不便である。行政として、眼を向けているのか。

(千葉 陽子 様)

市長 眼を向けているが、駅前の放置自転車は本当に困ったものである。私は自転車の普及は良いことだと思っている。環境にも健康にもよいのであるが、モラル、倫理観がどうしようもないほど低下している。駐輪場への案内とか撤去の問題とか、もっと力を入れてやる。駅前や施設の前は顔である。顔が汚れていれば、いい感じは持たない。モラルアップやマナーアップをこれから訴えていきたい。

【対応】 南大沢駅前は、一時は700台を超える放置自転車がある現状であった。地元町会、商店会が駅前クリーンキャンペーンを定期的実施し、放置自転車の一掃に向け積極的に取り組んだ。また、十分な駐輪場が確保されていることを背景に、放置自転車等指導誘導員を導入し一定期間、継続して放置防止を呼びかけるとともに、撤去活動も強化したところ、放置が激減した。

平成19年5月26日・北野事務所【東南部地域】

<意見> 市制100周年を目指し、夢を語るようなカラオケの大会を年に1回開催したらどうか。是非企画してもらって、会場を提供してもらいたい。

(佐藤 良信 様)

市長 地域の活動の中心になっていただいている方が企画をしてほしい。行政がやることではない。多くの皆さんに参加してもらいたいのであれば、行政はバックアップする。具体的に企画していただければ、バックアップできることはしていく。

【対応】 (財)八王子市学園都市文化ふれあい財団の支援事業として、実行委員会により平成20年1月6日学園都市センターイベントホールにて開催をした。

<意見> 障害者自立支援法のコミュニケーション支援事業について、「当面无料」としてくれたことに感謝する。今後も無料を続けてほしい。また、市役所に手話通訳者を設置してほしい。

(宮本 一郎 様)

市長 国の障害者自立支援法の趣旨では1割自己負担となっているところを、負担なしになるよう市がカバーしている。だから当面という表現をしているが、皆さんも困るだろうから、これからも続けたい。職員に手話通訳できる人がたくさんいる。ボランティアで勉強してできるようにしているので、是非声をかけてほしい。

【対応】 手話通訳等派遣事業について、平成20年度も引き続き自己負担無しで実施する。なお、平成20年度から、派遣対象に市が主催する事業に聴覚障害者等が参加する場合も含めることとし、事業の拡大を図った。今後も障害福祉計画に基づいた派遣件数を確保し、利用を促進するために、市広報であらためて制度の周知を図った。

平成19年6月9日・川口市民センター【西部地域】

<意見> 川口の物流基地の計画は、八王子市の都市計画マスタープランにも計画され、色々な動きがあるように聞いている。私は、この計画はこの地域が発展するには必要かつ重要であると思う。しかし、地元には情報が少ない。地元住民が事前に知るために、情報の共有ができないだろうか。

(浜中 賢司 様)

市長 21世紀の行政運営として、市民参加、協働というのは当然のことと思う。あらゆる分野で市民に参加してもらい、一緒に考え知恵を出しあって、一定の責任をもちながらすすめ、情報を共有するのは当然である。圏央道開通というのは極めて大きなビジネスチャンスをもたらすと考えている。これから、物流基地について、地域の皆さんと情報を共有するような組織を作る。今までは、物流拠点として成り立つかどうかという基本的

な調査をしてきた。地域の活性化が期待したとおりになるよう、皆さんの知恵をお借りしながら努力していきたい。

【対応】 19年度は、まちづくり検討会を立ち上げる前提として検討範囲の設定や基本方針などを定める必要があることから、川口地区、美山地区、元八王子地区の代表者の参加を得て、物流拠点整備を含めた、圏央道八王子西 IC 周辺まちづくりについての勉強会を実施した。

20年度は、勉強会での地域の皆様のご意見をもとに、基本的な計画の策定に向けた検討会を立ち上げていく予定。

<意見> 八王子八十八景は認知度が低い。私は、八十八景を広げていきたいと思っている。観光という視点で、八十八景がどんな役割を担っていると考えているのか。認知度アップのために、どんな対策をしていくのか教えてほしい。

(松山 夏季 様)

市長 八十八景が選ばれたときは、八王子にはこんなにいい所があるんだ、すごい資源があるんだと嬉しくなった。八十八景の役割は、いろいろあると思う。市外の方からは、八王子の魅力のひとつであり、八王子市民にとっては自信になる。新しい市民の皆さんがたくさんいるが、私は一日も早く身も心も八王子市民になってもらいたいという強い願いがある。八王子の歴史や文化に触れてもらい、いい所を知ってもらえば、ふるさと意識がもてるようになると思う。そういう大きな役割があるのではないかなと思う。認知度が低いと指摘を受けたが、これは頭の痛いところである。あらゆる角度から、認知度アップの努力をしていきたい。

【対応】 本市の特性に応じた景観施策を展開していくため、景観法に基づく「景観計画」及び「景観条例」の検討を平成 20 年度から始める。八王子らしい景観計画等を策定するためには、市の代表的な景観資源である「八王子八十八景」を踏まえ、検討を進めることが必要であると考え、景観計画等の検討を進めていく過程で、機会をとらえて八王子八十八景の PR を図り、都市景観に対する市民の関心度も高めていきたい。

平成 19 年 6 月 16 日・横山南市民センター【西南部地域】

<意見> 圏央道開通による八王子市の経済効果は地域間競争が必至と思われる。そこで企業誘致に関して、例えば 10 年間固定資産税を半減するといった優遇処置等は考えているのだろうか。

(水野 康直 様)

市長 圏央道が開通するという事は、ビジネスチャンスだと思う。産業振興には大きなプラスになる。優遇措置の件であるが、今、八王子市では「いきいき企業支援条例」をやっている。良い企業に八王子にこの機会に来てもらうというのは、大事なことだろうと思っている。固定資産税・都市計画税・事業所税を3年間キャッシュバックしている。

【対応】 市では、平成16年4月に「いきいき企業支援条例」を制定し、企業立地促進地域へのものづくり企業、商業、物流系産業、事務所の立地について、固定資産税、都市計画税、事業所税を3年間キャッシュバックする制度を立ち上げている。平成19年1月には、同条例を改正し、貸し施設（貸し工場など）の設置者や、ものづくり企業や物流系企業の施設設置のために大規模な事業用地を譲渡する者に対する奨励金の制度も設定した。

また、市内の宅建業者と連携して「企業立地サポートネット」を立ち上げ、立地を希望する企業に対する不動産情報の提供にも努めている。

これらの制度を活用しながら、都市再生機構や東京都という大規模業務用地の所有者、金融機関とも連携し、情報発信や企業ニーズの把握に努め、その後新たに1社指定を行い、現在21企業（内、ものづくり企業15社）に対して、支援条例に基づく指定を行った。

「いきいき企業支援条例」は、現時点では平成20年度の指定で制度が終了する予定になっているが、平成21年度以降の延長に向け、引き続き検討を行っていく。

<意見> 10年後の夢は、市民が気軽に語り合える交流の場で心豊かなまちである。町内がコミュニケーション豊かなまちになり、八王子が一番住みやすいまちになるということである。市民と行政がもう一步踏み出していかなければならない。地元の町民との交流、対話を活発化していくため、いつでも気軽に楽しく話し合える「自宅から近くの小さな交流の場」としての施設が必要であると思う。

（横沢 勝弥 様）

市長 同感である。残念なことに、地域の交流がところによっては薄まってきたりしていることに、心を痛めている。これは、まちづくりの大きな課題であると思う。交流の場として「ふれあいサロン」を紹介しており、市内36ヶ所で行っている。町会の会館を上手に活用していければと考えている。学校は空き教室があるが、子どもたちの安全・安心という観点からいえば、難しい。ひとり暮らしや高齢者だけの世帯が増えているから、交流の場は必要なことだと思っている。より積極的に取り組んで、場の提供等取り組んでいきたい。

【対応】 地域コミュニティ活動の拠点としては市民センターがあり、市ではその充実に努めているが、身近で気軽に楽しく話し合える交流の場としては、町会・自治会の集会施設が適している。市は、こうした集会施設の設置や改修工事に補助金を出している。また、ふれあいの場、交流の場として集会施設を利用したサロン活動を定期的に行っている町会・自治会も増えてきている。「ふれあいサロン事業」へ補助金を出している社会福祉協議会では、

現在、高齢者 42 ヶ所、子育て 10 ヶ所の計 52 ヶ所のふれあいサロンを立ち上げている。20 年度は 10 団体の立ち上げを目標としている。

さらに、「サロン活動支援事業」を実施する予定。少子高齢化社会においては、高齢者同士が地域においてきずなを深めることは必要なことであり、全市域に広がることを目指し、事業に取り組む。

平成 19 年 6 月 23 日・加住市民センター【北部地域】

< 意見 > 今日、圏央道八王子西 I C が開通した。西寺方から八王子 I C まで 30 分かかっていたが、5 ~ 6 分で行けるようになった。市長の尽力に感謝したい。以前から課題になっている中央高速の件であるが、首都高はすでに他県にまたがっている現状を考えたとき、三鷹の料金所をなくして八王子まで首都高にできないだろうか。

(飯高 達夫 様)

市長 圏央道は効果が大きく、八王子の西の地域にとっては便利になる。大変な朗報だと思う。関越道から中央道まで 1 時間半かかっていたのが、3 分の 1 の 30 分に短縮される。皆さんの使いやすい料金にすることは、大事なことだと思っている。首都高の問題だが、長年の課題で、八王子市議会でも一致団結して取り組んでくれている。しかし、首都高と中央道は、まったく違う会社であり、成り立ちからして、非常に難しい問題がある。料金が改められ、距離制になり、バランスがとれるように、今、関係機関に働きかけをしている。引き続き努力をする。

【対応】 圏央道の開通を機に、圏央道の通行料金の恒久的な引下げや首都圏の高速道路をより使いやすくより便利なものとしていくために、市長の提案により圏央道沿線の自治体や経済界、観光団体並びに圏央道の利用者などからなる「圏央道の使いやすさ向上を考える会」を立上げ、昨年秋には、圏央道や首都圏の高速道路の問題について討議するとともに、関係機関へ要請活動を行った。また、本年 2 月には圏央道の接続と中央道の開通 40 周年を記念して道路に関するフォーラムを開催し、広く社会へ高速道路の課題などについて訴えた。

< 意見 > 八王子にたくさんの大学がある。そこで、大学に協力してもらい、中学生が体験入学ができたらと思っている。将来の視野が広がるのではないか。留学生との交流も、国際貢献、国際理解のためには有効ではないか。

(佐藤 研治 様)

市長 前向きなご提案である。それぞれの大学が特色を出しながら、まちづくりにご協力してくれている。中学生が大学に行って体験入学をするというのはなかなか難しいため、大学生が中学生の部活にご協力をしてくれている。八王子市立の小・中学校では、大学生をインターンシップとして受け入れている。留学生は、ゲストティーチャーというような形でお願いできないだろうかという提案をしている。大学は知的資源、知的財産だと思っているので、これをフルに活用させていただくということは、まちづくりにとって有効な手段だと思う。

【対応】 市は、八王子国際交流団体連絡会と協働で外国人との交流事業を実施している。小・中学生と留学生との交流は、ゲストティーチャーとして留学生を含めた外国人が、小・中学生を訪問し交流する「国際理解教育」推進の観点から実施している。現在、12名の留学生が本事業に登録し、小・中学生との交流を行っている。また、学校インターンシップやネットワーク多摩から派遣される学生教育ボランティアにより、八王子市立小・中学校と大学生との交流や学校支援が行われるように仲介している。今後も留学生の登録者を増やし、小・中学校の本事業への要請が増加するよう、小・中学校及び大学等へ本事業への周知を図り、ゲストティーチャー事業、学校インターンシップ事業、学生教育ボランティア事業を推進していく。平成20年度に設立準備をすすめる「(仮)大学コンソーシアム八王子」で、大学と地域とのさらなる連携について協議していく。